

情報公開文書

研究課題名	2015 年出生児を対象としたハイリスク新生児医療全国調査
研究体制	<p>■他施設が責任研究機関となる共同研究 (責任研究機関： 日本小児科学会)</p>
研究責任者	<p>責任研究機関 所属 <u>日本小児科学会新生児委員会 委員長</u> 氏名 <u>日下 隆</u> 当 院 所属 <u>小児科</u> 氏名 <u>平林 佳奈枝</u></p>
研究期間	(西暦) 承認日 ～ 2021 年 9 月
研究の概要	<p>(研究の意義・目的)</p> <p>日本小児科学会新生児委員会では、1990 年から 5 年ごとに超低出生体重児 (出生体重 1,000g 未満) の死亡率の調査を実施してきました。これまでの調査では、いずれも日本で出生した超低出生体重児の 90%以上をカバーしており、本調査の結果は日本の周産期医療の水準を示す重要な指標として利用されています。また、超低出生体重児の分娩が予想される際に、ご家族に与えられる情報でもあります。これまでの調査の結果をみると、わが国の超低出生体重児の死亡率は調査のたびに改善しており、国際的にみても極めて治療成績が良いことが分かっています。</p> <p>本調査の目的は、2015 年に出生した超低出生体重児の死亡率を明らかにするとともに、過去の調査と比較してどのように変化しているのかを明らかにすること、さらには死亡率に影響を及ぼす要因を検討することです。またわが国の周産期医療の特徴として、超低出生体重児の死亡率は諸外国と比べて著しく低い一方、未熟児網膜症や慢性肺疾患といった、早産児特有の合併症の頻度が高いことが分かっています。本調査では死亡率とともに、これらの合併症の発生頻度についても調査を行い、わが国における現状を把握、諸外国との国際比較を行う際のデータとして使用するとともに、今後のわが国の周産期医療の更なる発展につなげることを目的としています。</p> <p>(研究方法)</p> <p>対象患者さんの診療録よりデータを抽出いたします。</p>
試料・情報	<p>(試料・情報の項目)</p> <p>出生体重、在胎期間、性別、新生児搬送・母体搬送の有無、分娩形式、母体へのステロイド投与の有無、臨床的絨毛膜羊膜炎の有無、妊娠高血圧症候群の有無、児が入院した日齢、児の合併症 (壊死性腸炎、新生児限局性消化管穿孔、慢性肺疾患、未熟児網膜症、嚢胞性脳室周囲白質軟化症、脳室内出血)、児の転帰 (自宅退院、転院、死亡)、主たる死亡原因、退院時の体格、在宅医療の有無 (氏名、生年月日、住所、電話番号など個人を特定可能な情報は含まれません。)</p>

<p>研究対象者</p>	<p>2015年1月1日から2015年12月31日に当院で出生体重1,000g未満で出生した新生児（超低出生体重児）</p> <p>※当研究に自分の情報を使用してほしくない場合は下記のお問い合わせ先までお申し出ください。</p>
<p>個人情報の保護</p>	<p>収集したデータは、誰のデータか分からなくした（匿名化といいます）上で使用いたします。国が定めた倫理指針（「人を対象とする医学系研究に関する倫理指針」）に則って、個人情報を厳重に保護し、研究結果の発表に際しても、個人が特定できない形で行います。</p>
<p>お問い合わせ先</p>	<p>〒380-8582 長野県長野市若里五丁目22番1号 長野赤十字病院 所属 <u>小児科</u> 氏名 <u>平林 佳奈枝</u></p> <p>TEL : 026-226-4131（代表） FAX : 026-228-8439</p>